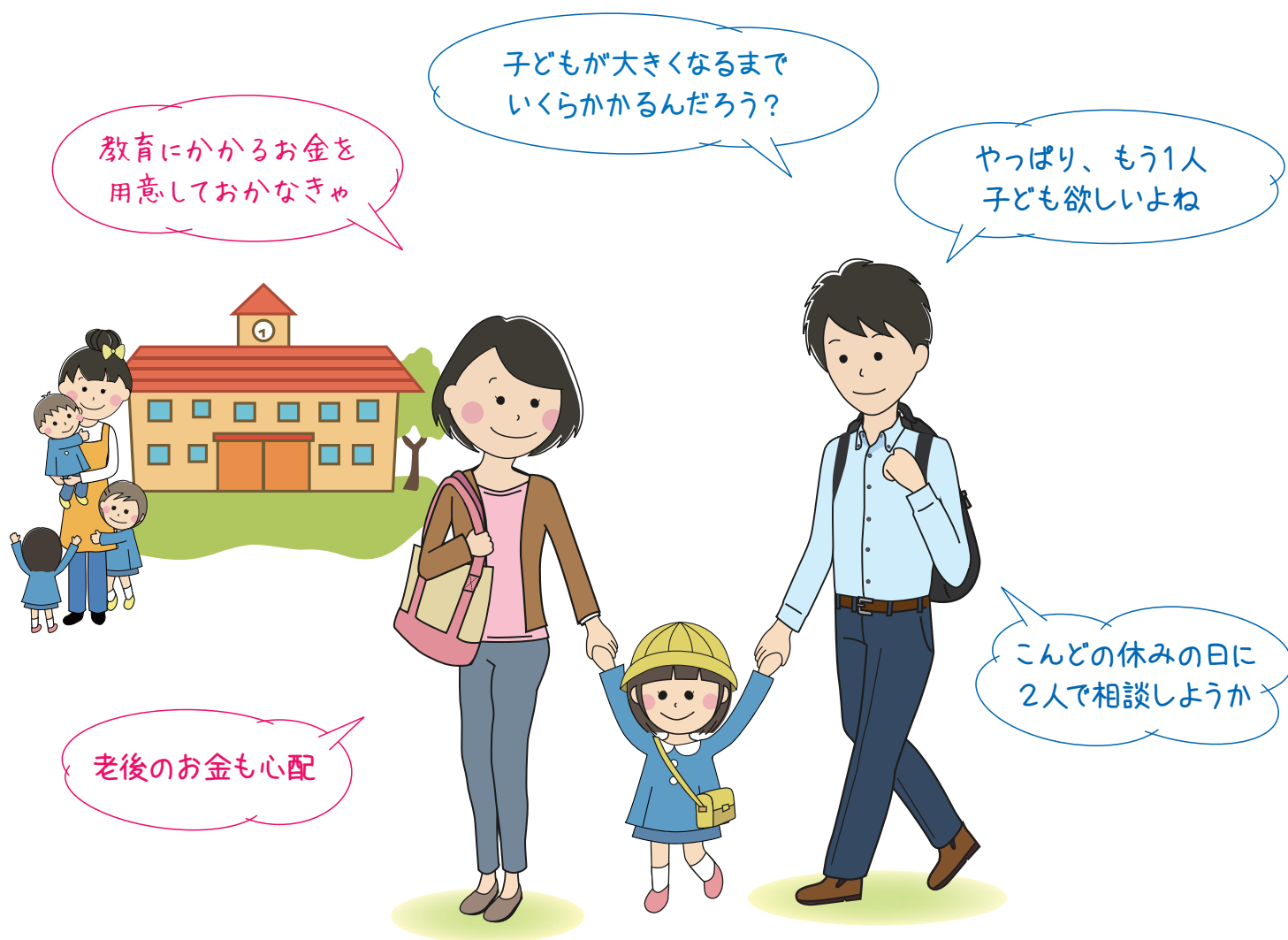


ママとパパ のための 幸せとお金の知恵



“幸せとお金”について
夫婦で話してみましよう。

金融広報中央委員会

(事務局：日本銀行情報サービス局内)

① “家族の幸せ”を描きましょう！

「実現したい」と思うことを、ノートなどに書き出してみましょう。

“幸せ”は、人それぞれです。**自分の価値観、夫婦の価値観**に基づいて書いてください。
夫婦で意見が違う点、悩んでいる点も、書いておきましょう。

書き方の例

家 族

- ・子どもがもう1人欲しい（できれば、今度は男の子がいい）。
- ・産むなら2年後がちょうどいい。

仕 事

- ・がんばって働いて収入を増やし、家族の幸せのために使いたい。
- ・下の子ができて今の仕事が続けたい。家事や育児をもっと分担してほしい。

教 育

- ・長女に習いごとをさせたい。中学受験をさせてみたい。系列の大学まで進めればいいな。
- ・下の子も平等に、高校まで公立にしたい。大学は私立でも。2人分の学費を用意しておきたい。子どもの自助努力（奨学金、バイト等）も求めたい。

住 宅

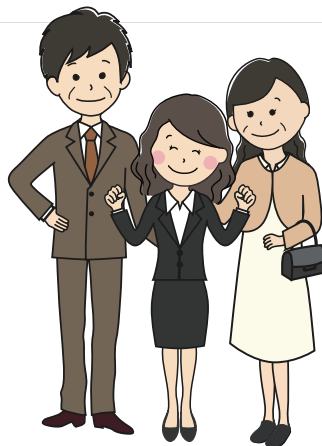
- ・仕事で転勤するかもしれないから、今のまま賃貸が当分は便利。
- ・いつかはマンションを買いたいけど、当分は私の実家近くに引っ越して、両親に子育てを少し助けてもらいたい（助けてくれると言っている。保育園や学童も充実してるそう）。

老 後

- ・退職後は、僕の故郷の親の家を改築して、のんびり田舎暮らしするのも楽しいかな。
- ・老後は都会で趣味を楽しみたい。年金だけでは不安なので、お金を貯めておきたい。

レジャーなど

- ・車があると便利。旅行に毎年行きたい。海外にもこれまでどおり3年に1回は行きたい。
- ・車がなくても困らない。海外旅行は、子どもが楽しめるようになってからがいい。



➡ ② “家計の今後”を考えましょう！

1 現状を確認しましょう。

*収入は、「手取り額」（支給額－税金－社会保険料）を、夫婦の合計で記入。

例

収入*	月 38 万円	年 530 万円(ボーナスを含む)
支出	月 35 万円	年 480 万円(臨時・特別の支出を含む)
収入－支出	月 3 万円	年 50 万円

(注)「収入－支出」のペースで、お金が貯まっていきます(＝資産が増えていきます)。

資産	150 万円(預金100万円、車50万円)
借金	150 万円(奨学金100万円、クレジットカード20万円、車ローン30万円)
純資産	0 万円(資産150万円－借金150万円)

(注)借金がある場合、**純資産**(資産－借金)が、“**本当の資産**”です。

2 今後を予想しましょう。

仮に、収入と支出が今後も変わらないとした場合、**純資産**はどうか？

現在 0 万円 → 5年後 250万円 → 10年後 500万円 → 15年後 750万円

収入の予想 ・産休や育休で一時的に減る。退職すると大幅に減る。
・仕事をがんばれば、収入は増えていく。

支出の予想 ・子どもが増え、2人が大きくなるにつれて支出は増える。

今後の予想 ・私が退職すると、収支は大幅な赤字になる！

3 課題を話し合いましょう。

教育費を貯めるには支出も見直さないと

うん、今のままじゃ、まずいね

老後のお金も必要だし…
いつかマンションも買いたいな

がんばって働いて
収入を増やそう！
教育費のめどがついたら、
住宅の頭金や老後資金を
準備しよう

やっぱり仕事は続けなきゃ

僕も家事や育児をもっと分担するよ

転職するかもしれないから、
住宅のことはゆっくり考えましょう。
子どもや親の状況にもよるし…
退職後どこに住みたいかも
よく相談しようね



➡ ③ “お金の方針”を作しましょう!!

ウラの **参考情報** を読み、夫婦で相談して方針を作ってください。

夫婦で作った方針の例

基本方針

- ・ 2人目の子どもが欲しい。2人分の教育費を貯めていく。
- ・ 共働きを続ける。がんばって収入を増やしていく。
- ・ まず教育費のめどをつける。その後で、住宅の頭金や老後資金を準備する。

教 育

- ・ 高校までの費用は、毎月の生活費の中から出していく。高校までは原則公立にする。
- ・ 大学は私立を想定する。2人の子に500万円ずつ、計1000万円を用意する。

住 宅

- ・ 実家近くの賃貸住宅に引っ越し、両親に家事や育児を少しだけ助けてもらう。
- ・ 将来、収入が安定的に増えれば、マンションを買いたい。ただし、子どもや親の状況、退職後どこに住むかなど、よく相談したうえで決める。

老 後

- ・ 共働きを続けて、老後にもらえる年金を増やす。
- ・ 子どもの自助努力(奨学金、バイト等)で、用意した教育費が余れば、老後資金にする。
- ・ 収入が増えて少し余裕ができたなら、老後資金づくりも始める。

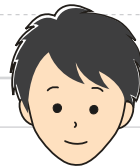
家計の見直し

- ・ 「天引き貯蓄」を始める。2人とも「月3万円、ボーナス時7万円」にして、年100万円貯める→10年で子どもの大学費用を貯め、その後は住宅の頭金や老後資金にしたい。
- ・ 家計費を1つの口座から支払うことにする。支出の内容を月に1回チェックする。
- ・ スマホは使用料や通話通信料などが安いプランにする。固定電話をやめる。
- ・ クレジットカードは1回払いだけにする。
- ・ 旅行は割安な時期やプランをよく選んで行く。
- ・ 家賃が今より安い実家近くの賃貸住宅に引っ越す。
- ・ 車を買替えるとき、両親と一緒に買って共用し、車の購入費や保険料を安くする。
- ・ 生命保険は保険料が安い掛け捨てにする。
子どもが大きくなれば保障額を減らす。

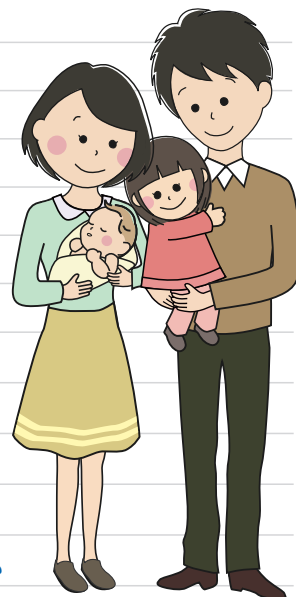
勉 強

- ・ 「天引き」でまず貯蓄するが、余裕ができたなら運用したい。
税優遇がある iDeCo や NISA で資産をつくりたい。
ジュニア NISA にも興味がある。
- ・ お金の運用は、2人でちゃんと勉強してから始めるようにしたい。

相談したことをまとめると
こんな感じかな



うん、この方針で
がんばってみようね!



(注) 方針はときどき見直しましょう。

参考情報

1. 人生の3大費用 ～金額をイメージし、準備していく優先順位を考えましょう。

- ① 教育…高校までにかかる費用は、毎月の生活費の中でまかなっていくのが一般的です。大学にかかる費用は、事前にある程度準備しておくのが一般的です。
- ・高校までにかかる「学習費」¹⁾は、幼稚園から高校まで全て公立の場合は540万円程度。全て私立の場合はその3倍以上です。

▼高校までにかかる「学習費」(万円)

年間			学校別累計			(参考) 総累計 全て私立 1770 全て公立 540
	公 立	私 立		公 立	私 立	
高 校	45	104	3 年間	135	311	
中学校	48	133	3 年間	143	398	
小学校	32	153	6 年間	193	916	
幼稚園	23	48	3 年間	68	145	

(出所)文部科学省「子供の学習費調査」²⁾

- ・大学にかかる費用は、自宅から通えるか、国立か私立かにより、かなり差があります。

▼大学4年間にかかる費用(万円)

	自宅生	自宅外生	うち入学金・授業料
国立	530	810	240
私立 文系	710	980	420
理系	870	1150	580

(出所)金融広報中央委員会「大学生のための 人生とお金の知恵」(2018年1月版)

- ② 住宅…住宅を「買う」場合、一戸建て、マンションとも、平均的な価格は3000万円台から4000万円台です(地域によって差があります)。それ以外に維持管理費や税金がかかります。大規模な修繕、建替えや買替えが必要になることもあります。

住宅を「借りる」場合、かかる費用の総額は、同じレベルの住宅を「買う」場合の費用の総額と、それほど大きな差はないといわれます。

住宅を早めに「買う」場合、教育費との関係がよく問題になります。住宅をずっと「借りる」場合、引っ越しがしやすい一方、老後も賃料を払い続けることになります。住宅を買うかどうかは、教育や老後のお金とあわせて考えるのが一般的です。



- ③ 老後…65歳で退職し、90歳まで生きると考え、生活費を夫婦で月30万円と想定すると、30万円×12か月×25年間＝9000万円かかります。仮に、年金を月20万円受け取れるとすると、退職までに3000万円を準備することが目安となります。

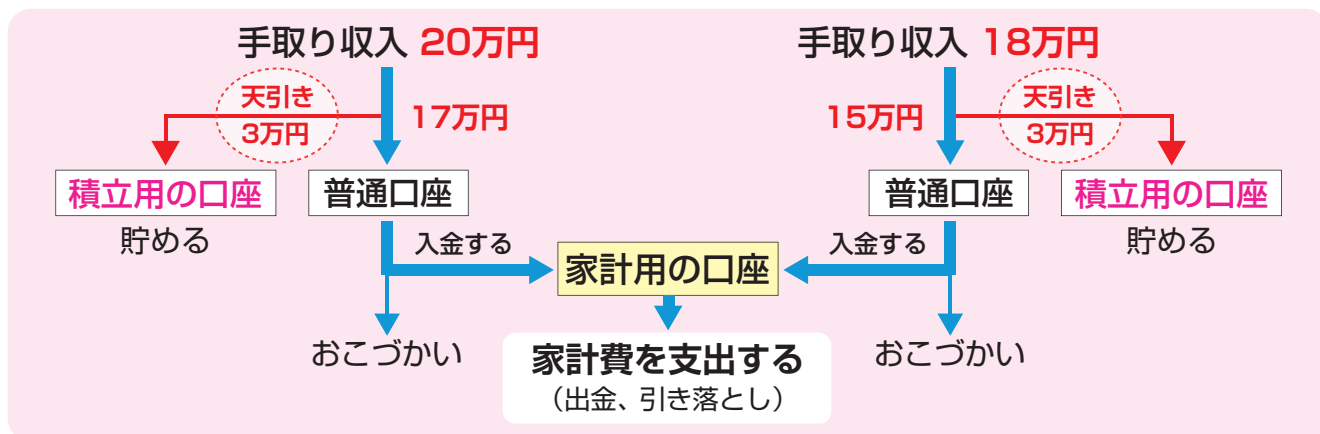
～受け取れる年金額は人によって異なります。自分はどのくらい受け取れそうか確認しましょう。

1)「学習費」には、「学校教育費」(授業料、入学金、学用品費等)、「学校給食費」、「学校外活動費」(習いごと、塾、スポーツ、文化活動等)を含む。家庭での食費などは含まない。

2)「学習費」は平成28年度の年額。「累計」は各学年の平均額の単純合計。1万円未満を四捨五入した。

2. 「天引き貯蓄」～お金を貯める効果的な方法です。……………

▼ 共働き夫婦の例(2人とも「天引き」するのがコツです)



(注)「天引き貯蓄」は、財形貯蓄、自動積立定期預金などで行うことができます。



貯めたい額を、最初に差し引いてもらうことを、「天引き」というんだ。天引きで積み立てるのが、お金を貯めるコツらしい。

積立てた後のお金で生活できるように、支出を見直そう。

私も「天引き貯蓄」を始める。年100万円貯めるには、2人とも「月3万円、ボーナス時7万円」にすればいいかな。

家計用の口座を作って全てそこから支出しようよ。支出が全部わかるから、見直しやすいよ。

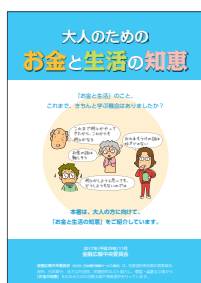


3. 支出の見直し ～4タイプの見直しが効果的です。……………

- 金利**がかかる支出……クレジットカードの分割払い・リボ払い、ローンの利用
- 固定的**な支出……家賃、保険、車、通信（スマホほか）など
- 特別**な支出……旅行、レジャー、趣味、交際など
- 習慣**になった支出……たばこ、酒、喫茶店の利用、飲み会、賭けごとなど

4. お金の管理・運用……………

- 生活費や教育費として必ず使うお金は、**預金**で管理するのが一般的です。
 ～預金は、「**安全性**」が高く、いざというときに引き出しやすく、何にでも使えます。
 一方、預金は「**収益性**」は低く、長い目でみるとインフレに弱い面があります。
- 当分のお金に**余裕**ができ、**老後資金**などのために「**収益性**」を考えたお金の運用（株式投資など）をしたいときは、金融商品の特徴や運用方法について、よく勉強しましょう。



勉強したい!

